

ネオ昭和 からむし通信

■本社 / 〒949-8522 新潟県十日町市伊達甲 236 TEL (025) 750-2857 FAX (025) 750-2858
http://www.karamushi.jp/ E-mail cfy49400@nyc.odn.ne.jp 発行人 / 村山好明
■上越事務所 / 〒943-0804 新潟県上越市新光町 2-7-20 TEL080-5225-3318 (所長: 米山康久)

第6号 〈大地の芸術祭の巻〉
発行 / 2009年6月20日

大地の芸術祭 花嫁行列作品 「scrap and bride」

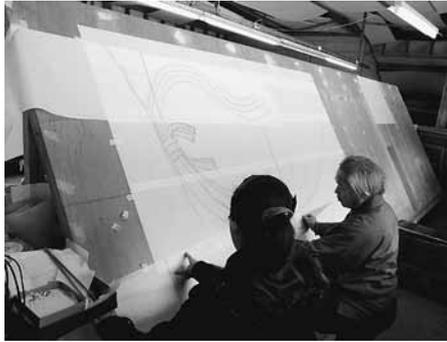
「scrap and bride」は、新潟県十日町市で開かれる現代美術の国際展へ大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ2009へに出展する美術作品である。

四年前の新潟県中越地震から「地震」と「復興」を経験した十日町の大地と、「古い家を捨てて」「誰かと新しい世界を築く」人生の一場面にある花嫁の

アーティスト・南雲由子さん

イメージを重ね合わせる、というコンセプトのもと、実際に結婚するカップルに十日町で制作したオリジナルの着物を着て頂き、花嫁行列を行う。

参列する家族や友人、十日町の地域の方々、展覧会を見に来た方々なども一緒に踊りながら歩いて「二人」の幸せを祝う、お祭りのようなものを作りたいと思っています。



南雲由子さんの作品創り現場です



大地の芸術祭 南雲由子さんの作品からむしの紙を使った「角隠し」です

現在、八月八日の花嫁行列に向け、会場となる、なぐも原・結いの里や地元の方々の協力、写真、音楽などアーティストとの協働をしながら、準備を進めている。

花嫁が着る衣装は、日本染芸さんのご指導、ご協力を得て、冬↓春↓夏↓秋の四枚で一つのものごたりになるようなイメージで、四枚の打ち掛けを制作させて頂いた。そして二〇〇九年冬、物語のはじまりとなる、冬の着物を着た花嫁の写真を撮影したが、その中で、角隠しの素



結いの里 菜の花畑で花嫁行列

材としてからむしの紙を使用させて頂いた。

一冬、雪深い白の世界の中で、赤い着物を着て立っている花嫁。彼女は今、離陸する飛行機に似た覚悟と、花婿との出会いの予感を秘めている。そんな凛とした表情を表現す

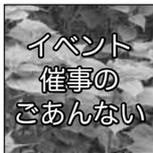
「scrap and bride」花嫁行列

日時：2009年8月8日（土・大安）
夕やけ頃～（17時受付開始）
場所：新潟県十日町市 なぐも原・結いの里周辺（新潟県十日町市伊達丙1626-2）
<http://yukonagumo.net/hanayome/index.html>

南雲 由子 YukoNAGUMO

プロフィール
1983年、東京生まれ。2001年より山野美容芸術短期大学にて美容師国家資格取得後、東京芸術大学美術学部先端芸術表現科へ。2008年卒業。
映画、イベント等でヘアメイクとして活動しながら、「人に直接触れ、相手にスイッチを入れる」行為としてのヘアメイクを主として美術作品を制作、発表。
2007年〈大阪・アート・カレイドスコープ2007〉出展。2009年夏〈大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ〉出展予定。2008年より、山野美容芸術短期大学美容芸術学科教員。

るのに、合う素材を探していたところ、私はからむしの紙に出会った。十日町の冬の厳しさを蓄えながら、柔らかな質感のからむしの紙はイメージにぴったりで、その紙に布用の接着芯を張り、角隠しを作った。
私は東京出身だが、この一年十日町に通い、季節をひとつひとつ感じながら作品を制作する中で、その自然に育まれた様々な素材や、人との出会いから、学びながら、制作を進めている。
冬を経て、春は「出会い」のシーズン。そして物語はクライマックス、夏の「祝祭」をむかえる。
読者の皆様にも、夏の夕方、花嫁行列に、夏祭りに参加するように浴衣などを着てお出かけ頂き、ぜひものがたりに参加して頂きたい。



7月17日

午前11時30分～午後2時30分
「からむし三昧」～なつ色浴衣と帯を楽しむ会

料亭 宇喜世

上越市仲町3-5-4 ☎025-524-2217

9月1日～3日

午前10時～午後7時
「あなただけのからむし
オリジナル浴衣を作ります」

東京日本橋・にいがた館NICOプラザ#2

東京都中央区日本橋室町1-6-5 ☎03-6214-1612

11月20日～22日

第3回 染織のための自然素材展・京都
時間未定

京都市・サラ細愛館

京都市上京区室町通水上ル ☎075-451-4741



新しい十日町からむしの華が誕生しました（市内南雲原）

今年5月21日に「からむし」の株を掘り起こし、5月27日十日町市シルバー人材センターの皆さんと共にNPO法人「結いの里」さんの土地をお借りして植え付けを行いました。
念願のからむし栽培が漸く十日町市で始まったのです。幸いにもNPO法人「支援センター」



からむし植え付け作業です



からむし株の掘り起こし作業

ける時代が必ず来ると信じ10年間忍耐と我慢をしてきた甲斐があり、また年とともに地球温暖化が強まり石油製品が敬遠されるなど植物繊維「からむし」に対する見方が従来と異なり追い風が吹いて参りました。
最近全国の多くの皆様からご注文やお問い合わせが多く寄せ

あんしん」さんの樋口副代表から全面的なご協力を頂き、上記場所意外にも市内白倉地区、市内川治地区で栽培を始める事が出来ました。3ヶ所で900坪になるうかと思われるほどの栽培場所になりました。文字通り「十日町からむし」ブランドの確立が出来たのです。これほど嬉しい事はありません。

会社設立当初「からむし」という名前は、ゴロが悪い、害虫のようだとかささん酷評されました。
しかし、からむしの良さを理解して頂く時代が来るまで10年間忍耐と我慢をしてきた甲斐があり、また年とともに地球温暖化が強まり石油製品が敬遠されるなど植物繊維「からむし」に対する見方が従来と異なり追い風が吹いて参りました。
最近全国の多くの皆様からご注文やお問い合わせが多く寄せ

られるようになりました。商品をお買い上げ頂く方はもちろんですが、教育に取り入れられるようになってきたのです。「からむし」が教育に取り入れられるようなことは考えた事もなく今まで夢のまた夢のような話でした。
NHKテレビ大河ドラマ「天人」の原作者火坂雅志先生との出会いはまさにドラマティックでした。まさか「からむし」が小説に出てくるなど信じられませんでした。そして先生は私に「からむしをどんどんPRして下さい。」とおっしゃって下さったのです。感動のまた感動でした。失礼な言い方になってしまいましたが「からむし」の強い強い味方が現れたのです。
従来「からむし」と言えば年配の方々の商品としてご愛用頂いてきましたが、これからは時代を担っていくであろう若い人たちが「からむし」を理解し事業に携わって頂く事を願ってやみません。

念願の「からむし」栽培がようやくスタート！